

第59回札幌矯正管区研修大会実施報告書（JKA 競輪補助事業）

記

- 1 実施年月日 令和5年9月7日（木） 第1日
午後2時から同5時まで
令和5年9月8日（金） 第2日
午前9時から同11時30分まで
- 2 会場 ホテル網走湖荘 北海道網走市呼人78番地
- 3 目的
混迷する今日の社会情勢の中、新しい時代に即応した宗教教誨の在り方が求められている。その中で私たち教誨師はそれぞれ使命感を持ち、心の拠り所としての活動を行っています。茲に全道の教誨師が一堂に会し、被収容者の改善更生につながる宗教教誨を目指して研究討議を行い、これからの教誨活動の在り方を求めるものとする。
- 4 研究題 主題 「新しい時代とともに」
副題 「こころの拠り所としての教誨」
- 5 参加人員 88名
教誨師39名、 矯正施設職員44名、その他関係者 5名
- 6 研修内容 第1日目 令和5年9月7日（木）
大会式典 午後2時から同3時まで
記念講演 午後3時30分から同4時30分まで
講演題 「特別支援教育の現状と課題」～教育現場からの報告
講師 日本体育大学付属高等支援学校校長
島崎 洋二 氏
第2日 令和5年9月8日（金）
研究発表 午前9時から同10時20分まで
月形刑務所教誨師 永谷 亮
「神の前に一人の「罪人」として立つ」
帯広刑務所教誨師 背古 宗敬
「厄祓い 前進するための祈り」
網走刑務所教誨師 加藤 哲雄
「教誨師になって彼らに何を伝えるか」
- 7 総括
本研修大会においては、札幌矯正管区教誨師連盟に所属する

教誨師が一堂に会し、研究主題「新しい時代とともに」を大会テーマに研修が行われ、犯罪や非行を行った者の心情安定を図り、自らを省みるきっかけを作ること、また、宗教心を伝え、その特性や社会性の涵養を図り、健全な人格形成を促すことを求められる宗教教誨の在り方や活動技術の共有が図られ、相互に意見交換を行うことで、教誨師としての見識を深めるとともに、新たな知見を養うことができ、今後の教誨師活動を行ううえで大変有意義な研修大会であった。

また、記念講演では、北海道の聾学校教諭を歴任し、現在は、日本体育大学付属高等支援学校校長の「島崎洋二」氏を招へいし、様々な障害を持つ生徒に対し、「スポーツ・労作・情操」の3つの教育に注力し、基本的な生活習慣を身に着けさせることで自立した未来が開けることを説明する講演が行われ、参加者からも近年の社会状況は大きく変化し、刑事施設に収容されている受刑者も高齢化が進み、様々な障害を持つものが増えていることを考えれば、自身の教誨活動を見つめ直すきっかけとなり、更なる指導技術の向上を摸索する機会を得ることができたなどの意見が挙がり、今後も自己研鑽に努めたいとする前向きな反応が多かったことから、大変有意義な内容であった。

8 研修の成果

札幌矯正管区管内の教誨師が一堂に会した本研修大会は、新型コロナウイルスが流し始めた令和元年度の開催を最後に中止となっていたため、4年ぶりの開催となったが、滞りなく無事に終えた、記念講演では、北海道の聾学校教諭を歴任し、現在、日本体育大学付属高等支援学校校長の「島崎洋二」氏を講師として招聘し、様々な障害を持つ生徒に対し「継続して働くこと」、「地域で自立して生活すること」を目標にして、「スポーツ・労作・情操」の3つの教育に注力し、基本的な生活習慣を身に着けさせることで自立した未来が開けることを説明した講演内容であったことから、参加者からも近年の社会状況は大きく変化し、刑事施設に収容されている受刑者も高齢化が進み、様々な障害を持つものが多くなっていることから、研究主題「新しい時代とともに」にあるように、これからの教誨師に求められる教誨活動の新たな知見や在り方、そして自身の活動を見つめ直すきっかけとなり、更なる教誨活動の充実

を模索する機会を得ることができたなどの意見が挙げられ、非常に有意義であった。

また、研究発表では、各施設の教誨師がそれぞれに工夫し教誨活動に当たっていることや、他宗派の教誨や教義を知る良い機会であり、自らの教誨について客観的に見ることにつながり大変参考になったとの意見がある一方、発表にかかる時間配分について、発表者が信仰する宗派の教義説明の時間が多く、教誨師としての活動報告や教誨活動の失敗談等の意見交換を求める内容が希薄化しているのではないかという意見もあった。

研修参加者数については、例年管内の教誨師研修大会が開催される時期（5月～6月）と国内の新型コロナウイルス感染者数が急増するゴールデンウィーク期間後が重なってしまうことから、前年度から幾度となく理事会を開催し日程調査を協議し、各教誨師へ周知していたものの、今年度は9月開催となり、各教誨師の日程調整が適わない状況から、前回大会と比較し約半数の参加者となった。次年度は、当管内が全国教誨師大会開催地であることから、積極的に管内の教誨師への呼びかけを行うことしたい。

総じて、本研修大会は、教誨活動の活発化が期待できるものであることに加え、管内に所属する教誨師の知見を深える絶好の機会であることから、今後も研修内容や運営体制の見直し等を図り、より充実かつ効果的な研修大会を目指し、開催を継続していきたいと考える。

写真1：看板写真



写真2：式典状況



写真 3 : 記念講演状況



写真 4 : 研究発表状況

